

## (6) 東浦町立東浦中学校

### ア 研究の経過

| 月日     | 活動内容   |
|--------|--|
| 6月12日  | 第1回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター<br>研究の概要，研究方針の説明<br>東浦地区研究協力校代表委員と情報交換及び方向性についての共通理解 |
| 8月24日  | 校内協議1 教務主任・学習指導部部長・副部長で分析 校長に報告  |
| 9月8日   | 第2回研究協力校連絡会（東浦地区） 会場：東浦町立東浦中学校<br>資質・能力の育成に向けた取組についての協議，授業参観，校内見学            |
| 9月28日  | 校内協議2 ①現状把握シート②SWOT分析シート③カリキュラム・マネジメント検討シートについて提案（職員会議）                      |
| 10月5日  | 校内協議3 ①②③について協議（学年会議）  |
| 10月26日 | 校内協議4 ①②③について報告（職員会議）  |
| 11月2日  | 第3回研究協力校連絡会（東浦地区） 会場：愛知県立東浦高等学校<br>各校の資質・能力の育成に向けた実践についての協議，発表会資料の検討         |
| 11月20日 | 第4回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター<br>発表会に向けてのリハーサル，本年度の研究のまとめについて（研究紀要）                |
| 11月27日 | 第60回総合教育センター研究発表会（中間報告）  |
| 2月16日  | 第5回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター<br>本年度の研究のまとめと次年度の取組について                             |
| 3月末日   | グランドデザイン策定   |

### イ 過程で見えてきたこと

研究初年度はカリキュラム・マネジメントについて職員に周知し，理解を深めることを重点的に取り組んだ。そして，本校の現状把握・分析をするために以下の①～③のシートを用いた。

#### ①生徒の現状把握（生徒現状把握シート）

学年会で生徒の現状を話し合う中で「素直で優しい」「落ち着いている」といったよさと、「主体的に学ぶことが苦手」「確かな学力が定着しない」といった課題が見えてきた。また，生徒の強みとして地域愛が強い点，対話的学習が素直にできている点が見えてきた。一方，生徒の弱みとして行動力・決断力が弱い点，考えて行動することのできない点が見えてきた。そこで，生徒のよさや強みを生かして，学校教育目標に迫ることができるように本校で身に付けさせたい生徒の資質能力を以下の

- ・自ら律し，生活習慣を身につけられる力（生活力）
- ・目標を定め，課題解決のために継続して学習に取り組む力（課題解決力）
- ・自ら考えて行動できる力（考動力）
- ・進路指導を通して，将来について真剣に考えられる力（進路，そして未来へ・・・）

4点に定めた。

#### ②学校の内部環境・外部環境の分析（SWOT分析シート）

本校の外部環境の特徴としては，四つの小学校区から進学してくるので，人間関係がリセットしやすい点や，調理実習や福祉教室などでの外部講師が手厚い点が挙げられる。また，協力的な保護者や地域の方が多い反面，教育に対する考え方が多様化している現状がある。

また、本校の内部環境の特徴としては、教職員の結び付きが大変強いことや、生徒が行事で大変盛り上がる点が見えてきた。一方、外国の多様な文化も受け入れていく必要がある現状が把握できた。

### ③学校の特色と課題の把握（カリキュラム・マネジメント検討シート）

教職員間では、東浦中学校の特色を連携のよさと考えていることが分かった。それは、学級や学年・教科の垣根を越えて、生徒の成長を第一に考え、教師と生徒が喜びを共有しながら教育を進めている証である。一方、課題としては全体的に評価に関する認識が低いことが挙げられる。また、研修で学びたいが、学ぶ機会が少ないことなど、今後改善すべき課題も見えてきた。

ウ 「社会に開かれた教育課程」を実現するための、資質・能力を意識した実践

中学3年社会科の「地方自治」の単元で授業実践に取り組んだ。本時の目標は東浦町がよりよい町になるための具体的な要望を考えることである。本校が掲げる四つの「生徒に身に付けさせたい能力」の中の「課題解決力」「考動力」を育てるという目標を授業に落とし込んで実践した。話し合う場面では、身近な町の様子から「交通事故のない町になるといいな」とか「学校にタブレットが欲しい」といった意見を持ち、班で一つの要望にまとめようと話し合った（写真1）。そして、最終的には東浦がよりよい町になるという課題が解決できるかを今一度確認し、振り返りをした（写真2）。

本年度、各教科部会を強化し、PDCAサイクルの取組、ふだんの授業をお互いに見合い、議論することで教師の力量のアップを目指している。また、ふだんの授業を教師が互いに見せ合う公開授業週間を設け、現職教育主任が東中研究通信という形で全職員に周知している。



【写真1 話し合いの様子：考動力】



【写真2 発表・振り返りの様子：課題解決力】

エ 成果と今後に向けての見通し

今年度の成果としては以下の2点が挙げられる。

- ・本年度の実践を通して、教職員一人一人の視野が広がり、他教科、他学年の先生方の取組を知ることができ、授業改善について誰とでも話せる環境ができた。
- ・カリキュラム・マネジメントシートや研修を通して、抽象的だった教育内容を数値化して、本校の強みと弱みを目に見える形にできた。

今後の見通しとしては以下の2点が挙げられる。

- ・地域の施設・人材を活用し、本校の実態に合ったカリキュラムを作成し、生徒が資質・能力を身に付ける授業実践に取り組み、PDCAサイクルを継続することで、生徒も教職員もともに力を付けていくことのできる取組をしていく。
- ・小学校、高校との連携を強化していく。身に付けさせたい資質・能力が小学校でどこまで身に付いているのか、高校ではどこまで身に付いていけばよいのかを異校種間で情報交換することで、より発達段階に応じた指導ができるのではないかと考えている。児童生徒に身に付けさせたい力を系統立てていく。